

第 4 回

開催日時	平成21年11月24日（火曜日） 午後6時33分～8時54分	
開催場所	沼袋地域センター 洋室3号	
出席者	委員	長谷川嘉昭、笹川 五郎、内山佐和子、阿藤 敏子、鈴木 真司、 本間みどり、小林 尚美、竹内 実、柴田 恵、中澤 保夫、 伊野 啓子、内野 秀夫、千葉 千恵、吉村 恒治 (敬称略、順不同)
	事務局	学校再編担当
傍聴者	0人	
会議次第	【報告】 1 統合新校開校に向けた校舎等施設の改修工事について 2 丸山小学校体育館等の改築について 【議事】 1 統合新校の校名について 2 その他	

第 4 回 丸山小学校・沼袋小学校統合委員会 会議要旨

委員長

定刻となったので、これより第4回統合委員会を開会する。
本日は、傍聴者はいないとのことである。

1 報告

(1) 統合新校開校に向けた校舎等施設の改修工事について

(2) 丸山小学校体育館等の改築について

委員長

初めに、報告事項が2件あるとのことなので、事務局より報告してもらおう。

■資料「統合新校開校に向けた校舎等施設の改修工事について（写）」に沿い、事務局より報告（概要）

- ・ 本件については、前回、前々回の統合委員会で協議を行い、意見を取りまとめていただいた

ところであるが、10月23日付けで教育委員会への提出手続きを行った。

- ・ 提出した意見については、教育委員会から区の工事担当に写しが送られ、設計等に配慮してもらいたい旨が伝えられた。

(写)

平成21年10月23日

中野区教育委員会 御中

丸山小学校・沼袋小学校統合委員会
委員長 笹川 五郎

統合新校開校に向けた校舎等施設の改修工事について

丸山小学校・沼袋小学校統合委員会では、統合新校開校に向けた施設の改修工事に関して、安全で魅力ある教育環境を整備する観点から、協議を重ねて参りました。このたび、以下のとおり意見を取りまとめましたので、学校統合委員会の設置に関する要綱第3条第1項の規定に基づき、報告します。

1. トイレの改修について

- (1) 出入り口にかなり段差のある箇所があり、児童にとっては利用しづらい状況です。利用しやすいトイレにするためにも、安全面の向上をはかるためにも、この段差を解消していただきたいと考えます。
- (2) 授業の終了時など児童が一斉にトイレを利用するような場合は、女子用のブースが少ないと思われる。何らかの工夫を施して、できる限りブースを増やしていただきたいと考えます。
- (3) 現在は、多くの家庭のトイレが洋式です。足の怪我など何らかの事情でしゃがめない場合もあるので、学校のトイレも洋式を増設していただきたいと考えます。

2. 図工室・理科室の改修について

図工室と理科室の設備が老朽化しており、コンセントが流しの下にあるなど、使い勝手も悪い状況です。新しい学校において充実した教育活動が行えるよう、図工室と理科室を改修していただきたいと考えます。

3. 廊下の流しの改修について

廊下の流しが老朽化しており、水の流れが悪くなっている状況です。新しい学校のイメージを醸し出すためにも、衛生面の向上をはかるためにも、廊下の流しを改修していただきたいと考えます。

4. 校庭の樹木の撤去について

校庭の中央に3本の木がありますが、この木があるために校庭が広く使えない状況です。学校行事(運動会)などで利用する際にはとても邪魔になるので、この木を撤去していただきたいと考えます。

5. 焼却炉の撤去について

焼却炉は、平成9年より使用禁止措置がとられています。新しい学校を開校するうえで、不用となっている焼却炉は撤去していただきたいと考えます。

6. 校庭のフェンスの改修について

校庭のフェンスが老朽化しており、支柱が錆びている箇所があります。新しい学校のイメージを醸し出すためにも、安全面の向上をはかるためにも、校庭のフェンスを改修していただきたいと考えます。

7. 校舎外通路の照明の増設について

夕方になると、体育館周辺（西門や南側校舎の横の通路など）はとても暗くなります。キッズプラザなどが整備されますと児童の帰宅時には暗くなっていることが想定されますので、校舎外通路の照明を増設していただきたいと考えます。

8. 改修工事の前倒しについて

統合新校が開校した後（平成23・24年度）にも多くの改修工事が予定されております。新しい学校を開校するにあたっては、なるべく施設整備を進めた状態で開校することが望ましいと思われまので、統合前にできそうな工事はできる限り前倒しで行うことを検討していただきたいと考えます。

■資料「丸山小学校体育館等の改築について」に沿い、事務局より報告

（概要）

- ・ 前回の統合委員会では、本件について、当委員会等からの意見を受け、基本設計を一部変更する旨口頭で報告したところである。本日は、その内容を資料にしたものと図面を用意したので配付する。

1. 改築に関する主な意見とその対応

	主な意見	対応
1	図工室やコンピューター室を配置することになっているが、アリーナ利用時の控室や会議室としても利用できるよう、多目的室などに変更できないか。	図工室（図工準備室）の配置を変更して、多目的室を配置することとする。
2	地域開放も想定して、更衣室やシャワーを設置するべきではないか。	図工準備室を配置する予定であった場所に設置することとする。
3	アリーナに冷暖房を設置できないか。	アリーナの面積を狭めない工法で設置することとする。
4	アリーナの通風がよくなるよう、配慮してほしい。	腰の高さの窓やギャラリーの窓を増やすなどして、通風に配慮することとする。
5	アリーナの扉が少ない。避難時のためにも、通風のためにも、扉を増やせないか。	アリーナの東側部分にもう1か所扉を設置することとする。
6	運動する部分と学習する部分が隣り合わせになっているので、防音対策はしっかりとやってほしい。	仕切りとなる壁に防音効果の高い素材を使用して、対策を講じることとする。
7	学習する部分の上にキッズプラザなどがあるが、防音対策はしっかりとやってほしい。	2階の床に防音効果の高い素材を使用して、対策を講じることとする。

2. 今後のスケジュール

平成 21 年度：実施設計

平成 22 年度～平成 23 年度：改築工事（解体工事を含む）

平成 23 年 9 月末：竣工予定

委員長

事務局より報告があったが、質問などがあればお願いしたい。

—— 特になし ——

委員長

それでは、報告事項については終了する。

2 議事

(1) 統合新校の校名について

委員長

次に、議事に移る。

「統合新校の校名について」であるが、本日は配られた資料をご覧いただきながら、委員一人ひとりの意見を伺っていきたいと思う。

■資料「各委員から寄せられた校名候補一覧（＊）」

＊前回の統合委員会での協議に基づき、校名募集で応募のあった校名（47件）の中から各委員が統合新校の校名にふさわしいと思うものを3件以内で選び、集計して一覧にした

	学校名	よみがな	（応募者が書かれた）説明・理由	（委員が書かれた）選定の理由・感想
1	青空	あおぞら	・青空のように、きれいな学校になってほしいから	・スケールの大きさと爽やかな感じがすばらしいと思いました
3	明歌	あすか	・明日になっても、いつになっても、歌が歌ってられるようにしたいから	・明るい未来のイメージが良い ・地域の歴史にとらわれない名前で良い
12	共進	きょうしん	・2つの学校が1つになって、これから共に進んで歴史をつくっていくというイメージを名前で表わしてみました	・2つの学校が1つになるという理念には共感する（「共」という文字は政治的意味として取られるのではという懸念はある）
18	桜野	さくらの	・丸山小学校は桜がきれいだから ・となりの緑野中学校も「野」がついているから	・緑野中との対比で地域性を出せると感じたため。ただし“桜”でなく“櫻”のほうがよいと思う ・本当は“さくら”が良いと思ったが、他区・他県にも“さくら小学校”が多く、緑野中とダブってしまうのもどうかと思ったが、“櫻木”よりはこちらのほうがイメージに合うかと思った ・地域の歴史にとらわれない名前にしたかった
23	清風	せいふう	・清らかな風のような、純粋な子供になってほしいので	
25	たいよう	たいよう	・太陽のように、きらきらと光っ	・今までにない感じがいいのでは

			ている	ないでしょうか
27	中野籠原	なかのかごはら	<ul style="list-style-type: none"> ・「籠原」は地域の古い地名。昭和29年に丸山小学校が開校した時も、籠原小学校になる予定だったようです。同じ学校名は埼玉県にあるので、中野をつけました 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの辺にある学校か予想がつくと思うので、ゆかりの地名を入れるのは良いと思う ・丸山の地名であり、土地の人も愛着のある名である。「かご」をひらがなで書くとわかりやすいか ・地域の歴史ある地名を後世に続けていく一つとして学校名に生かすことができるし、地域にも支持されやすい ・古い地名を残すという良さがある ・両校の校名を入れないという申し合わせだったが、地域を表わす語を使用したほうが愛着が沸くのではないかと思うから
41	緑野	みどりの	<ul style="list-style-type: none"> ・緑野中学校のとなりにあり、小中の交流も進んでいる。将来、更に交流が進むと思われる ・「緑野」という名前のひびきが大変よい ・親しみやすく覚えやすい ・愛着がわく 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑野中と連携を進めている学校である。「緑の野」が印象深く、さわやかな感じである ・隣接する中学校との連携と地域に親しまれていく公立学校の地域への周知を高めていくため ・緑野中と隣接しているから、地域に一体感をもってもらい易い。他地区の方にも認知され易い ・緑野中が短期間で地域に浸透したので、隣接する丸山小も同じ緑野という名前が受け入れられやすいと思った。 ・将来小中一貫校になってほしいので
42	緑原	みどりはら	<ul style="list-style-type: none"> ・丸山小学校は緑がきれい、原っぱみたいだから 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑あふれる環境の中で、子どもたちに健やかに学び合ってほしいという願いをこめて。新校の環境を考えると、「緑」を入れたい
44	萌木	もえぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい木の芽が芽ぶくように、子どもたちの未来がこの学校からみずみずしく芽ぶき、育っていくように 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから成長していく小学生のイメージにあっている ・新しく芽生えるイメージ。再生のイメージもあって良い ・地域の歴史にとらわれない名前

				を選んだ ・応募者の思いに共感した。同時に、新校も木々が芽を出しぐんぐん育つように、地域の中に根つき発展して欲しいと願い、この名前を選んだ
47	若葉	わかば	・若葉がどんだんのびて緑野になるから	・若々しさと瑞々しさが感じられる ・成長をイメージさせる点が小学校にふさわしい。若葉から緑野へと続くイメージが、新校→緑野中への連続性を表現できる点 ・これから成長していく小学生のイメージにあっている ・丸山小周辺は緑豊かで、緑野に行く前の子どもたちを「若葉」というイメージで捉えられるから ・応募者の理由を読んで“なるほど”と思った

■資料「校名候補に関する都内の同一校名・類似校名について（参考資料）」

18. 桜野 同一校名・・・武蔵野市立桜野小学校 類似校名・・・世田谷区立桜小学校 27. 中野籠原 類似校名・・・品川区立原小学校 41. 緑野 同一校名・・・狛江市立緑野小学校 類似校名・・・墨田区立緑小学校 類似校名・・・板橋区立緑小学校 類似校名・・・小金井市立緑小学校 42. 緑原 類似校名・・・墨田区立緑小学校 類似校名・・・板橋区立緑小学校 類似校名・・・小金井市立緑小学校 類似校名・・・品川区立原小学校 47. 若葉 同一校名・・・立川市立若葉小学校 同一校名・・・調布市立若葉小学校

委員

私は、「中野籠原」がよいと思った。理由は、資料に書かれているとおりである。

委員

私は、「若葉」がよいと思った。ただ、他の自治体にも同じ名前の学校があるので、そのことが気になる。

委員

私は、丸山小学校の近くに住んでおり、籠原という地名に馴染みがあるので、「中野籠原」を選んだ。

また、新校と隣接している緑野中学校がゆくゆくは小中一貫校になってほしいという思いから、「緑野」を選んだ。

個人的に感じたこととして、校名の漢字の読み方は、音読みだと固い印象を受けるが、訓読みは親しみやすいと感じたので、訓読みの校名がよいと思った。

委員

私は、新しい学校の名前として、地域をイメージできるものがよいのか、全く新しいイメージのものがよいのか迷ったので、それぞれ1つずつ選んだ。

「中野籠原」は、観音様の名前などにも残っているので幾らか地域を連想することができ、「萌木」は、子どもたちの瑞々しいイメージを感じたので、この2つがよいと思った。

「緑野」も考えたが、新校と緑野中学校が小中一貫校になると決まっているわけではなく、今のところは別々の学校なので、避けたほうがよいと思った。

委員

私は、木々が芽を出してぐんぐんと育つように、地域の中に根づく学校になってほしいという思いから、「萌木」を選んだ。

また、若葉が大きくなって緑野になる（緑野中学校への進学に続く）というイメージから、「若葉」を選んだ。

私も初めは「緑野」がよいと思ったが、緑野中学校には新校の子どもだけが通うわけではなく、近隣の小学校の子どもたちも通うことになるので、新校だけが同じ名前になるのはどうかと感じ、あえて選ばなかった。

委員

私は、「緑野」と「中野籠原」がよいと思う。

「緑野」は、緑野中学校が地域に浸透していることから、その中学校周辺にあると連想できるのでよいと思った。

「中野籠原」も同じ理由で、地名が入っていることでどこにある学校なのか分かりやすく、中野区全体にも浸透しやすいと思った。

委員

私は、以前緑野中学校の校名を決める際にも関わらせてもらったが、“緑豊かな場所である”ということと“中野の野原で子どもたちが成長していく”ということのを合わせて「緑野」に決めたと記憶している。その経緯に当てはめて考えると、「若葉」がよいと思った。どこにでもありそうな校名だが、中野の若葉を地域で育てていくという観点からも、若葉（子どもたち）が伸びて（成長して）隣の緑野中学校に行くというイメージからもよいと思う。

また、“若小（わかしょう）”などと略されるように、言いやすいということが校名を決めるうえでの1つのキーワードになると思う。先ほど漢字の読みが訓読みだと親しみやすいという話が出たが、共感できる。

委員

私は、「緑野」がよいと思っている。地域で「緑野」の名前が受け入れられているということは大きいと思うし、中野区に住んでいれば大体の場所がわかる。また、丸山小学校や沼袋小学校を卒業した子どもたちは、実際に緑野中学校に通っているので馴染みやすいと思う。

先ほど話に出た「若葉」は、「青葉」や「若木」などの似たような校名があるということと、どこにある学校なのか分からなくなってしまうことが気がかりである。

委員

私が丸山小学校のよいと思っているところは、木々が多く、緑が豊かで、爽やかなイメージがあるところである。校名を選ぶ際には、その丸山小学校の位置にできる新校なので、“緑”がつく校名が馴染むのではないかと思い、「緑原」を選んだ。

「緑野」も選択肢にあったが、「緑野」と言った時に小学校なのか中学校なのか区別がつかず、分かりにくいのではないかと思ったので、あえて避けた。

委員

私は、「緑野」がよいと思う。現在も丸山小学校と緑野中学校では交流が進んでいるようなので、子どもたちに名前が馴染んでいるのではないかと思った。

もう一つ「中野籠原」も選んでみたが、“籠”という字が難しいことと、籠原という古い地名を知っている子どもは少ないのではないかという話を聞き、やはり「緑野」がよいのではないかと思っている。

委員

私も、最初は「緑野」か「若葉」がよいと思ったが、最終的には「若葉」を選んだ。イメージとしては、緑の野原ができる前は若葉ではないかということである。日本の有名な長編アニメの一場面で、どんぐりの種のようなものを蒔いたときに、芽がポンと出て、それがだんだん大きな木々になっていくシーンがあった。そのように、子どもたちが伸びていくイメージの持てる「若葉」がよいと思った。

委員

私は、「緑野」がよいと思った。ただ、先ほど話に出ていた緑野中学校と名前が同じになってしまうことを、どのように考えるかが課題だと思っている。

また、元気な小学生を連想することができるので、「若葉」もよいと思った。

委員長

漢字の音訓読みなどについての話が出たが、事務局で常用漢字等について分かっていることがあれば説明をお願いしたい。

事務局

資料の校名候補の漢字の中で、現在の常用漢字表にないものは「中野籠原」の“籠”と「萌木」の“萌”である。ただし、“籠”については、常用漢字表の見直しが行われた場合に掲載される文字の候補となっている。

補足であるが、常用漢字表にない漢字は校名に使用できないということではない。

委員長

各委員より意見を述べてもらったが、資料の中の「青空」「明歌」「共進」「桜野」「清風」「たいよう」についての意見はなかったので、候補が絞られてきたように思う。

将来の子どもたちのことを頭に描きながら、よい校名を考えていかなければならないと思うので、さらに意見をお願いしたい。

「中野籠原」という意見が出されたが、籠原といわれていた地域は、丸山小学校の周辺だけではなく、非常に広いエリアである。また、この地名を知っている人はだいぶ少なくなっているもので、そういったことも踏まえながら考える必要があると思う。

委員

校名が「緑野」となった場合、状況を全く知らない人は緑野小学校と緑野中学校が小中一貫校であると勘違いしてしまい、混乱を招くのではないか。あえて混乱するような状況をつくるよりも、先ほど話があった緑野中学校にステップアップしていくイメージの「若葉」がよいと思う。

現在の丸山小学校と緑野中学校の交流状況やロケーションを考えると、小中一貫校になること

は望ましいことである。小中一貫校の校名は、そうなった時にまた地域の代表などが集まって、ふさわしいものを考えればよいと思う。

委員長

話がずれてしまうが、小中一貫校のよいところは、例えば小学校から中学校までの9年間で4年・3年・2年に分けて教育活動を定めることもでき、様々な発想で中身が濃い教育を展開できる点である。丸山小学校と緑野中学校は、運動会を合同で行うなど積極的に交流を図っているが、それは将来小中一貫校を望んでのことだと私は思っている。今後、新校と緑野中学校が小中一貫校になることを望むのであれば、地域や保護者などが一丸となって教育委員会等への働きかけを続けていかなければ実現しないと思う。

委員

将来小中一貫校を目指すにしても、「緑野」という校名にしなくてもよいのではないか。緑野中学校が開校して2年目になるが、校名はすっかり地域に定着している。同じように新校が新たな校名になったとしても、すぐに定着して馴染むと思う。

保護者の間では、いろいろな小学校から緑野中学校に子どもたちが来ている関係で、同じ校名の学校（緑野小学校から緑野中学校）へ進学するというのを嫌がっている方もいる。

委員

小学校と中学校で同じ名前の学校は他区でもたくさんあるので、私は同じ名前になったとしても構わないと思う。

これまでに開校した「桃花」と「白桜」は、校名を聞いても場所を連想することができない。そういったことを考えると、地域に定着している「緑野」であれば、大体の場所が連想できるのでよいと思う。

委員長

先ほどより小中一貫校についての話が出ているが、事務局でそのへんの動きが分かっていたら説明をお願いしたい。

事務局

教育委員会では、今年6月に「これからの中野の教育検討会議」を設置し、その中で小中一貫校や地域と学校の連携などについても議論をしてもらっている。ただ、中野区として小中一貫校を設置していくのかどうかということは結論に至るまで時間を要するので、統合委員会では一貫校の話は別として校名の協議を進めていただきたいと考えている。

委員長

校名を決めるにあたっては、多数決で決めたくないと思っている。各委員が納得のうえ全員の賛成をもって決めたいので、しっかり話を煮詰めていきたい。他に意見があればお願いしたい。

委員

沼袋小学校は、校章に大根の葉が用いられていることから、スクールカラーは“緑”となっている。「緑野」や「若葉」であれば、沼袋小学校のエキスを残すことができるのでうれしく思う。

委員

私は、「緑野」という校名は気に入っており、緑野小学校でも抵抗なく受け入れることができる。しかし、先ほど“緑野中学校には新校以外の小学校からも子どもたちが通うので、「緑野」の名前は避けたい”というような意見が出ていたので、じっくり検討しながら決めてもらいたいと思う。

委員

私の通っていた小学校と中学校は同じ名前であったが、校名が一緒だからといって、特段小学校と中学校の連帯感を感じることはなかった。児童や生徒が連帯感を感じるかどうかということ

は、その学校の取り組みに関わることだと思う。校名が同じということと一体感や連帯感があるということは、別のことである。

委員長

今の意見のとおりだと思う。それは、すぐにできることではないが、今後の課題である。

少し視点を変えるため、参考までに投票してみてもどうか。

委員

発言が止まってしまったので、この投票で決めるということではなければ、投票してみてもよいと思う。

委員長

それでは、この資料の校名候補の中から、各委員がよいと思うものを1つだけ選んで投票してみたいと思うがよろしいか。

—— 異議なし ——

—— 投票 ——

事務局

投票の結果は、「緑野」が10票、「若葉」が4票であった。

委員長

この結果について、意見があればお願いしたい。

委員

順当な結果だと思う。「緑野」というのは、緑野中学校のよいイメージがあるので、抵抗感はない。ただ、もう少し慎重に考えなければならぬと感じたので、私は「若葉」に票を入れた。

「緑野」でも何の問題はないと思う部分もあるが、戸惑っている感覚はあるのでそれを払拭しておかなければならないという気がしている。

委員

私も「若葉」と書いたが、別に「緑野」が嫌だというわけではないので、迷っている。先ほど小学校と中学校の名前が同じでも特に影響はないという話もあったので、こだわる必要はないと思っているが、やはり小学生というイメージがあるので「若葉」とした。

委員

当初は「若葉」がよいと思っていたが、いろいろな話を聞いているうちに「緑野」もよいかと出てきた。今の投票では「若葉」に入れたが、気持ちが揺れ動いている。

委員

私は、「緑野」を選んだ。緑野中学校というのが地域でも定着しており、1つのランドマークのようなかたちになっているので、地域の一体感を醸成するという意味でも、同じ名前でのよいのではないかと考えている。

委員

私も、「緑野」を選んだ。地域からも愛されており、中野区全体に認識されているというのを聞いて、よいと思った。

「若葉」は、若干幼いイメージになってしまうのではないかと感じた。小学校は1年生から6年生までいるので、「緑野」のほうが適していると思った。

委員

小学校と中学校が同じ名前になれば、それをもとに“一緒に頑張ろう”“サポートしていこう”というような小学校・中学校・地域の連携を図っていくことができるのではないかと思い、「緑野」を選んだ。

委員

私は、「若葉」を選んだ。子どもたちの気持ちの中には、小学校から中学校へ進学するときに切り替わりのようなものがある。6年生をみていると、何か変わろうとしているところがあり、新しい自分を見つけに行く場所として中学校を捉えているのではないかと思う。そのことを考えた時に、学校の名前も違っていただろうが子どもたちの新しい夢を育めるのではないかと思った。「若葉」は、確かに幼い感じもするが、子どもたちがステップアップしていける感じがするので捨てがたい。

委員長

投票を行い、さらにいろいろな意見が出された。投票はあくまでも参考であるが、票数の差はかなりあるので、もう少し話を進めて本日中に校名候補を決めてしまうこともできると思うが、いかがか。

委員

意見が集約されつつあるとは思いますが、本日決めることに抵抗がある方が1人でもいれば、やめたほうがよい。

委員長

次回引き続き協議するのもよいが、話をまた振り出しに戻すのであれば、いつまで協議しても決められないと思う。

私が言いたいのは、決められる時には決めようということであって、決めることを急いでいるわけではない。

委員

先ほどの本日決めないほうがよいという意見は、私を含め「若葉」に入れた4人のことを考えての発言だと思う。自由に考えて選んだ結果が「若葉」であったが、「緑野」が反対というわけではない。次回までに、「緑野」にして大丈夫なのか、子どもたちの思いをそれに込められるのかというようなことを確認させてもらえればと思う。

今回は、本日の投票と協議で「緑野」と「若葉」の2つに絞り込まれたことが前提となるので、話が振り出しに戻ることはないと思う。

委員長

意見が分かれたままということは考えられるが。

委員

統合委員会なので、各委員が納得するまで話し合いをする義務はあると思う。校名を決めるという重たい使命なので、決める時が来たというタイミングまでは丁寧にやらなければならないのではないか。

委員

各委員の意見を聞いていると、歩み寄ろうとする気持ちはあると思う。今回は1つに決めるということになれば、委員の覚悟も違うので、意見はまとまると思う。

委員長

それでは、本日の投票と協議を踏まえ、今回は「緑野」と「若葉」の2つのうちから校名候補を決めたいと思う。

なお、次回欠席される方がいれば、あらかじめ事務局に意見を伝えておいてほしい。

(2) その他

委員長

最後に、次回の日程調整を行う。

—— 日程調整 ——

委員長

次回は、来年1月25日月曜日午後6時30分から、沼袋地域センターで開催する。

本日はこれをもって閉会する。